

令和6年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立高知江の口特別支援学校高知大学医学部附属病院分校

<p>《高知県の教育の基本理念》</p>	<p>(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人</p>	<p>学校像</p>	<p>◇子どもにとって 安心・安全に学べ、明日も通いたいと思える学校 ◇保護者にとって 子供を安心して任せられる学校 ◇病弱教育にとって 病弱教育の専門性を有し、センター的役割を發揮できる学校 ◇教職員にとって 個の力をチームの力にできる学校</p>	<p>目指すべき姿</p>	<p>センター的機能の發揮及び、チーム学校として組織的・協動的に以下の項目に取り組む。 【1】専門性の向上 病弱教育に対する知識とスキルの向上 ICTを効果的に活用した授業や行事を行い、ICT活用指導力と授業力の一層の向上を目指す。 【2】キャリア教育の充実 児童生徒が将来を見据え勤労観・職業観を育む 病弱と向き合いながら、将来や職業について考える力を育み、学習意欲を高める。そして、治療に向かう力にもつなげる。 【3】学校設定項目 多様な教育的ニーズに対する教育内容の創造 登校や学習への指導・支援に困難性が高い児童生徒の支援方法について学び、前籍校へ支援を引継ぐ。 【4】働き方改革 計画的に年休を取得し、心身ともにリフレッシュし健康的に働く。 業務の精選と役割分担の見直しにより、業務内容を改善する。</p>
<p>《取組の方向性》</p>	<p>《4つの基本方針》 ①「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②「高知家」の子ども誰一人取り残さず、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④「学校における働き方改革」、「チーム学校の推進・強化」、「教員等の人材確保に向けた取組」の一体的推進</p>	<p>児童生徒像</p>	<p>□自分に合った学び方を使って主体的に学び、豊かに生きる児童生徒 □多様性を尊重し、他者と助け合い、よりよく生きる児童生徒 □自分の心と身体に適した生活を調整し、健康な生活を送る児童生徒</p>	<p>目指すべき姿</p>	<p>目指すべき姿</p>

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
<p>専門性の向上 病弱教育に対する知識とスキルの向上</p>	<p>◆ICTを効果的に活用した授業や行事を行い、ICT活用指導力と授業力の一層の向上を目指す。</p>	<p>(現状) ・児童生徒はほぼ毎日、アプリやサイトなどを活用する姿が見られている。 (目標) ・児童生徒と教師が授業でICTを日常的に活用している。 ・全教員が授業の中でICT活用ができていく(使用頻度一日1回以上)。 ・個別の指導計画にICT活用について記入し、計画的に活用する。 ・公開授業(事後協議含む)を各学部1回以上行う。 ・病弱に関する研修会を行う(年2回)。 ・授業実践についての研修会を行う(年1回以上)。</p>	<p>・研究計画を立て、公開授業(事後協議含む)を実施【研究部・各学部】 ・前籍校が使用しているサイトやアプリを使い、学習を進める。 【小学部】 ・ICTを活用した教材研究を行う。【中学部】 ・病弱や授業実践についての研修会の実施【研究部】 ・GIGAスクールサポーターによる研修の実施(年間8回以上) 【情報担当】 ・行事の中でICTを活用する。</p>	<p>B ・小学部が公開授業と事後協議により、活用スキルの向上に繋がった。 ・教材研究時のICTの活用は定着してきており、前籍校と連携した活用も一部行った。 ・病弱に関する研修及びGIGAスクールサポーターの助言により、授業や行事において児童生徒の実態に即したICT活用の実践に生かすことができた。</p>	<p>・2学期の参観週間に中学部の公開授業(事後協議含む)を実施し、ICTの効果的な活用について協議を行う。 ・公開授業の振り返りも併せて授業実践についての研修会を実施する。研修内容を指導に生かし、年度末にその成果を共有、確認する。</p>			
<p>キャリア教育の充実 勤労生観・職業観の将来を見据えた</p>	<p>◆病弱と向き合いながら、将来や職業について考える力を育み、学習意欲を高める。そして、治療に向かう力にもつなげる。</p>	<p>(現状) ・毎月17日(国民的SDGsの日)頃に、15分程度で取り組んだ。 ・ゲストティーチャーによる授業が計画通りに実施できなかった。 (目標) ・学校全体でSDGs学習に取り組み、児童生徒が自分のできることを見つけ実施している。 ・子どもたちが意欲的に取り組める教育活動を病院と連携しながら更に充実させる。 学校評価アンケートでSDGsに関する項目を設ける。児童生徒の実施状況が70%以上 ゲストティーチャーによる職業に関する授業を継続実施する(年2回)。</p>	<p>・「国民的SDGsの日」の毎月17日にテーマを決めて理解を深める取り組みを継続する。(例:朝の会でクイズ) ・児童生徒が作り上げたものを学園祭で発表する。 ・1学期と2学期にゲストティーチャーによる授業を実施する。 ・音楽教室(のどカルテット演奏会)の実施(年2回)【教務部】 ・ポッチャ大会【小・中・教頭が主となり各1回ずつ】</p>	<p>C ・SDGsについて毎月の取組は十分に実施できなかったが、2学期に向けて教材づくりに取り組んだ。 ・ゲストティーチャーとして「サスケ工房」(A型就労)さんにて、コンピューターによる図面確認等、病弱者の就労について教えていただき、多様な仕事の理解と進路を考える機会とした。</p>	<p>・毎月17日前後で、SDGsクイズを行い、児童生徒がSDGsについて考える機会を設定する。 ・11月以降にコーヒースタンド経営者をゲストティーチャーに招き、好きなものが拓く未来について考える機会とする。 ・音楽教室は1回目を12月に実施予定である。ポッチャ大会は子どもの状況に応じて開催する。</p>			
<p>学校設定項目 多様な教育内容の創造</p>	<p>◆登校や学習への指導・支援に困難性が高い児童生徒の支援方法について学び前籍校へ支援を引継ぐ。</p>	<p>(現状) 「こっちの学校の方がえい」「勉強がわかる」といった声が聞かれることもあった。子どもの興味関心を中心に置いた自立活動の取り組み内容も、子どもの登校意欲につながっていると思われる。 (目標) 不登校児が在籍した場合には、支援計画を作成し、見える化して組織的に支援できている。 該当する児童生徒全員の前籍校に支援方法を引継ぎできている。</p>	<p>・高知大学医学部附属病院子どものこころ診療部より講師を迎えて研修をする(年1回以上)。(外部専門家) ・不登校児の支援について組織的に取り組む。担任や担当から情報を集め教頭が整理する。 ・不登校児が転入した場合には、支援体制を組み、支援スケジュールを作り、支援を実施する。 ・前籍校への支援の引継ぎの充実に取り組む。</p>	<p>C ・児童生徒一人一人の実態や背景に応じて、SCや病棟と連携して支援を行い支援会において、前籍校での支援の充実につながる引継ぎに取り組んだ。</p>	<p>・高知大学医学部附属病院子どものこころ診療部より講師を迎えて研修を実施する。 ・不登校児が転入した場合には、支援計画を見える化し、組織的に支援に取り組む。</p>			
<p>働き方改革</p>	<p>◆計画的に年休を取得し、心身ともにリフレッシュし健康的に働く。 ◆業務の精選と役割分担の見直しにより、業務内容を改善する。</p>	<p>(現状) 各教員が必要に応じて年休は取得した。 ・業務量の見える化については十分に進んでいない。地域支援と研究部長の兼務は業務量が多くなっている。 (目標) 教員の希望にそって年休取得できるように計画する。全教員が8月末で年休の残日数が20日以下となっている。 業務の量を把握し、担当を超えて見直しを行い、どの役割でも業務量の多少がないようできるだけ平準化している。 業務量が見える化できている。</p>	<p>・リフレッシュのための年休取得であり、全教員が取得するということを職場で共有、浸透させる。 ・労働安全衛生に関する職員への情報提供を行う(年3回)。 【教頭】 ・業務を見える化し検討する。【教頭】 ・職員全員で平準化に取り組む。 ・不祥事防止に係る研修を年間を通して定期的に実施する。 ・不祥事防止月間を設定する。</p>	<p>B ・労働安全衛生に関する伝達研修を行い、休息や協力の必要性について教職員共通理解を図った。 ・児童生徒数の状況に応じて、教職員が協力して業務の平準化に取り組み、夏季休業中は、全教職員が4日以上連続休暇を取得した。 ・7月を不祥事防止月間と位置づけ、また2か月に1回、研修を計画、実施し、風通しの良い職場づくりに取り組んでいる。</p>	<p>・業務の平準化を図るとともに、年休取得の促進、気持ちよく働ける環境づくりに取り組む。 ・各学期に労働安全衛生に関する情報提供を行う。 ・2か月に1回、不祥事防止の研修を計画、実施し、引き続き、風通しの良い職場づくりに取り組む。</p>			